

高柳 和弘 選

特 選

一席 ポケットにどんぐり一つ宮参
 二席 何かしら見えてきたよう賀状来る
 三席 湘南の浜降りたてば風は秋

宇佐 佐々木 里枝
 宇佐 原井 加代子
 神奈川 野村 香代子

入 選

初空に真白き馬の無尽なれ
 冬晴れや高層マンション光満つ
 校庭の銀杏落葉を掛け合ふ子
 字足らずの山頭火碑や落葉舞ふ

東京 遠藤 玲奈
 臼杵 徳永 榮子
 宇佐 永松 市夫
 宇佐 久保 英代

人悼む色に移りて山眠る
 眼裏へ紅葉残し微睡みぬ
 この先は我が選択が恵方道
 一軒家更地となりて冬日さす
 露座仏に手を合はせつつ紅葉狩
 草やぶのお日さまひとつからす爪
 平穏な未来を祈る七五三
 初時雨檜皮の屋根に黒く泌む
 木犀や隣家の境定まらず
 土俵ある小学校や宇佐に秋
 色鳥の小枝に鋏の手を休め
 製錬の煙真つ直ぐ初茜
 玉砂利の音ついて来る寒の朝
 冬耕の畝は真つ直ぐ宇佐平野
 菰を巻く松百年の声を聞き
 外とつ国へ嫁ぎし娘冬銀河

津久見 富田 湖人
 宇佐 入学 ひさみ
 岐阜 田中 恭司
 宇佐 永松 悦子
 宇佐 今村 七栄
 宇佐 佐藤 公代
 宇佐 奥野 律子
 別府 堀越 和子
 別府 堤 節子
 大分 矢野 安鎮
 臼杵 芋岡 勝一
 大分 阿部 嬉子
 臼杵 芋岡 勝一
 大分 佐藤 一男
 別府 片岡 学
 宇佐 後藤 明彦

溝口 独妙 選

特選

一席 初日影踏み張る獅子の鬘に
 二席 長々と見えぬ話の寒さかな
 三席 禍も福も神に預けて年迎ふ

東京 遠藤 玲奈
 宇佐 河野 二三華
 大分 佐志原 たま

入選

湘南の浜降りたてば風は秋
 共白髪 柏手揃へ 初詣
 双葉山称へ甚句の菊薫る
 玉砂利に春の足音 宇佐参り

神奈川 野村 香代子
 臼杵 芋岡 勝一
 宇佐 入学 ひさみ
 宇佐 本多 直代

賓客や先づは軸見る冬座敷
 膝小僧並ぶ足湯や小六月
 老ひてなほ明日につなぐ日記買ふ
 小春日やおしやべり弾む共白髪
 懐かしや去年の賀状読み返す

宇佐 永松 市夫
 宇佐 永松 悦子
 大分 古屋仲 くに子
 宇佐 本多 加代子
 臼杵 徳永 榮子

新嘗祭 豊栄舞の雅楽かな

宇佐 奥野 律子

一人居に暮しの工夫冬に入る
 月高し見慣れし夜景旅の帰路
 初詣姉妹四人の富士額
 一茶忌の庭に雀のよく遊び
 庭手入するにこよなき小春かな
 どんぐりを踏みて古里近くする
 たわわなる枝ごと柿を載きぬ
 この先は我が選択が恵方道
 黄落の嵩をちこちに裏参道
 宇足らずの山頭火碑や落葉舞ふ

宇佐 樋口 道子
 別府 岩田 節子
 大分 阿部 嬉子
 大分 矢野 安鎮
 中津 前田 八重子
 津久見 富田 湖人
 宇佐 田中 ひろこ
 岐阜 田中 恭司
 宇佐 佐々木 里枝
 宇佐 久保 英代

佐藤 一男 選

特 選

一席 また一冊介護の証日記果つ

宇佐 市川 円

二席 あの星のひとつは妣ははや冬銀河

宇佐 後藤 明彦

三席 秋の夜や提灯の群橋渡る

宇佐 後藤 仁

入 選

初時雨檜皮の屋根に黒く泌む
共 白髪 柏手揃へ 初詣
川涸るやそれぞれにある石の相
大鳥居仰ぐ一步に淑氣満つ

別府 堀越 和子
白杵 芋岡 勝一
宇佐 河野 二三華
国東 吾亦紅

左肩ぎいと音する秋の暮
菰を巻く松百年の声を聞き
平穏な未来を祈る七五三
製錬の煙真つ直ぐ初茜
ふる里は同姓ばかり柿熟るる
土俵ある小学校や宇佐に秋
一札でくぐる結界初しぐれ
どんぐりを踏みて古里近くする
冬に入る風呂の温度を一度上げ
ポケットにどんぐり一つ宮参
青空に色極まりし櫛紅葉
木犀や隣家の境定まらず
外とつ国へ嫁ぎし娘冬銀河
御神木触れし安堵の初詣
長々と見えぬ話の寒さかな
一軒家更地となりて冬日さす

白杵 徳永 榮子
別府 片岡 学
宇佐 奥野 律子
大分 阿部 嬉子
大分 矢野 安鎮
大分 矢野 安鎮
宇佐 松本 公節
津久見 富田 湖人
宇佐 市川 円
宇佐 佐々木 里枝
神奈川 野村 香代子
別府 堤 節子
宇佐 後藤 明彦
宇佐 本多 直代
宇佐 河野 二三華
宇佐 永松 悦子

松本公節選

特選

一席 色鳥の小枝に鰍の手を休め
 二席 どんぐりを踏みて古里近くする
 三席 幾度も初鴨数へ直しけり

白杵 芋岡 勝一
 津久見 富田 湖人
 宇佐 今村 七栄

入選

海峽を渡りて神の旅立ちぬ
 櫛紅葉近づくだけでかぶれけり
 木犀や隣家の境定まらず
 初時雨檜皮の屋根に黒く泌む

神奈川 野村 香代子
 神奈川 野村 香代子
 別府 堤 節子
 別府 堀越 和子

玉砂利の音ついて来る寒の朝
 初鴨や真青な空を降りたてり
 尖る風庭へ真直ぐに冬来る
 磴登る千年の杜木の実降る
 朝湿り落葉の嵩を踏み行けり
 一枚がなかなか撮れぬ七五三
 左肩ぎいと音する秋の暮
 菰を巻く松百年の声を聞き
 神の池逆さ紅葉の映えてをり
 道に敷く桜紅葉をかき集む
 鏡餅御神体てふ石一つ
 宇佐宮の安らぎに凍蝶果てり
 黙深し十一月の宇佐の宮
 雑貨屋に竹箒買ふ秋の暮
 たわわなる枝ごと柿を載きぬ
 八幡の杜鎮もりて夕時雨

白杵 芋岡 勝一
 大分 木本 真佐子
 宇佐 河野 二三華
 宇佐 永松 悦子
 宇佐 本多 加代子
 宇佐 佐藤 公代
 白杵 徳永 榮子
 別府 片岡 学
 宇佐 奥野 律子
 宇佐 西谷 貴志子
 大分 阿部 嬉子
 大分 豊東 美智子
 大分 矢野 安鎮
 大分 矢野 安鎮
 宇佐 田中 安鎮
 宇佐 田中 ひろこ
 宇佐 久保 英代